



野庭すずかけ小だより

2月号

横浜市立野庭すずかけ小学校

2024(令和6)年2月1日

TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nobasuzukake/>

節分(冬から春へ)～次への準備～

副校長 藤田 健太郎

2月3日は、節分です。節分とは、季節の分かれ目であり、立春、立夏、立秋、立冬のそれぞれの前日のことを節分と言っていました。現在では、特に立春の前日を節分と呼び、広く知られています。しかし、なぜ、冬から春に季節が変わるときだけが「節分」という言葉が残ったのでしょうか。それは、寒さを我慢していた冬から、命が動き出す春がやって来るということで、とても大切にしてきたからだと言われています。冬眠していた動物たちは目覚め、卵で冬を越した生き物は、卵からかえります。草や木も新しい芽が伸びてきます。そして、私たち人間も春は新しいスタートを迎えます。小学校を卒業して中学校へ進学したり、上の学年に進級したり、大人は就職して仕事を始めたり、新しい場所に仕事先が変わったりします。だから、この冬から春への変わり目を大切にしてきたのでしょうか。

さて、2月は暦の上では立春を迎え、春が始まる月です。しかし、1年の中では最も寒い時期でもあります。そんな厳しい寒さに耐え、いち早く花を咲かせ、春の訪れを教えてくれるのが、梅の木です。梅の木には、「好文木」という別名があります。その昔、晋(中国)の皇帝である武帝が学問に親しむと花が開き、怠ると開かなかったという故事から、梅の木が学問を好む木＝好文木と呼ばれるようになったと言われています。また、日本で学問の神様とされている菅原道真が好んだのが梅の木(花)というのは有名な話です。道真が残した「東風(こち)吹かば 匂ひをこせよ 梅の花 主なしとて 春な忘れそ」との句にも梅の花を愛していたことがうかがわれます。そのことから、全国の天満宮(道真を祭神とする神社)には、必ず梅の木が植えられています。



学校の梅の木にも、赤い小さなつぼみをたくさん見つけることができました。ゆっくりではありますが、春が近づいていることを感じます。

2月は、その学年で学習する内容が身に付いたかを確認する、まとめの時期です。寒い冬にも負けず、元気いっぱい学習に取り組み、次の学年へと準備をする子どもたちの姿は、まるで梅の木のようなのです。あたたかな春を迎え、鮮やかな花をたくさん咲かせる

ことができるように、一日一日を大切に過ごしていけるよう支援していきます。引き続き、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。